





「健康」を軸にした持続可能なりんご産業形成事業 【所管：農林部 りんご課】

事業の背景	人口減少が進行する中、健康寿命の延伸、健康増進は当市のみならず我が国全体の重要な課題ですが、青森県は日本一のりんご産地である一方で、日本一の短命県でもあるという憂慮すべき状況にあり、弘前市においては、働き盛り世代の死亡率が全国平均や青森県の数値より高いことから、健康に関する意識啓発が重要です。 特に、基幹産業であるりんご産業の生産現場では、炎天下での長時間の作業や繰り返しの重作業による身体負担が大きく、農作業事故リスクもあることから、生産者誰もが身体の負担を減らしながら、安全かつスムーズに作業に取り組める環境の構築が必要です。また、生産者や補助作業者の高齢化が深刻化し、経験を有する熟練者の引退によって技術継承が十分に為されない状況に陥りつつあることから、最適な管理技術を通じて、樹の健全化を促進し、国内外に向けて高品質りんごを安定的に供給する体制づくりが求められています。					
地域再生計画の期間	令和5年度～令和7年度【3ヵ年】		連携自治体	なし		
事業概要、決算額、成果【R6年度分】	生産者の健康寿命の延伸に向けた取組	項 目	取組内容	効 果	写 真	決算額 (単位：円)
			<p>●生産者向けの健康手法の構築</p> <p>・生産者の健康増進に向けた行動変容を図るため、JAの女性部を対象としたQOL（啓発型）健診を実施。 （参加者：QOL健診 45名）</p> <p>●身体負担の軽減に向けた栽培管理手法の構築</p> <p>・省力樹形栽培と慣行栽培の作業の身体負担や動作を計測し、樹形による身体負担を明らかにするとともに、作業の身体負担軽減を目的とした最適な省力樹形栽培の手法を検討。</p> <p>・近年増加している鳥獣害や気候変動に対応するスマート農業技術や農業事故防止を啓発する技術等の展示会を開催。（参加者：約170名）</p> <p>・持続可能なりんご産業に向けた省力樹形やデジタル技術を活用したセミナーを開催。（セミナー参加者：86名）</p> <p>●健康増進の普及を担う活動に対する支援</p> <p>・健康増進の普及のために生産関係団体が行う健康講座を支援（2事業）</p> <p>・地域におけるりんご取扱い事業者による機能性表示食品制度を活用したりんご生果・ジュースの創出支援（1事業）</p>	<p>・JAと連携して、りんご生産者に対してQOL健診や健康講座等を実施しました。参加者は、今年の目標として健康増進を掲げるなど、健康に対する意識付けが図られました。</p> <p>・慣行栽培と省力樹形の各樹形毎に、身体の部位に与える負担を比較することができました。</p> <p>・スマート農業の展示等を通じ、身体負担軽減につながる最新の技術の共有を図りました。</p>	<p>【QOL健診】</p>  <p>【身体負担軽減に向けた栽培】</p> 	4,082,123

事業概要、決算額、成果【R6年度分】	高品質りんごの安定生産に向けた取組	<p>●デジタル技術の活用による健全な樹体管理の促進</p> <p>AI技術を活用した適正着果量診断アプリケーションの現場検証、デジタル技術を活用した若手生産者向けの剪定学習会を実施。</p> <p>(AI技術を活用した適正着果量診断アプリケーション)</p> <p>6月～：AI精度向上に向けた画像データ拡充、現場利用による精度検証</p> <p>(デジタル技術を活用した剪定学習会)</p> <p>8月：初心者を対象にした剪定学習会実施</p> <p>12月：デジタル技術を活用した講師向け学習会</p> <p>1月：初心者を対象にした剪定学習会実施</p>	<p>・指導員や新規就農者との議論や検証を重ねながら、現場実装に向けたアプリケーションの運用方法の検討を進めることができました。</p> <p>また、デジタル技術を活用した剪定学習会では、講師役の講習会を実施し、段階（就農前、初心者、中級者）に応じた研修内容のあり方や実施方法について検討しました。</p>	<p>【デジタル技術を活用した剪定学習会】</p> 	10,950,000
	消費者の健康に寄与するりんごの供給拡大に向けた取組	<p>●非破壊による機能性成分分析の実現に向けた、光センサー技術を活用した解析方法の検討、実証</p> <p>機能性表示食品制度を活用したりんご生果の地域展開に向け、りんごに含まれるポリフェノールの非破壊計測技術の確立に向けた実証試験や、産地ブランドの定着に向けた課題を整理。</p>	<p>・分析試験等を通じ、ポリフェノール含有量の傾向把握や非破壊計測の可能性について検証し、非破壊による機能性成分分析の構築に寄与しました。</p> <p>・産地ブランド「ひろまる」の定着に向けてパッケージデザインの見直しを行いました。</p>	<p>【りんご生果の機能性表示食品】</p> 	6,999,300
合計： 22,031,423円					

重要業績評価指標（KPI）の推移

指 標			R5	R6	R7 (最終)	累計
指標①	弘前市の果樹産出額(億円)	目 標	384.6	388.6	394.6	-
		実 績	467	469.8	-	-
指標②	りんご生産者QOL健診参加者数(人)	目 標	30	35	40	105
		実 績	50	45	-	95
指標③	特定健康診査の受診率(%)	目 標	34.2	38.9	43.6	-
		実 績	34.1	36.8	-	-
指標④	機能性表示食品制度を活用した弘前ブランドとしてのりんご生果届出数(件)	目 標	2	2	2	6
		実 績	0	0	-	0

事業効果

地方創生に相当程度効果があった

※「非常に効果的であった」、「相当程度効果があった」、「効果があった」、「効果がなかった」の中から一つを選択。

今後の方向性

【総括的な成果】  
関係団体等と連携を深めながら様々な取組を進め、地域における新たな手法や仕組みの創出等、産地の課題解決に向けて取組を行ってきたことで、果樹産出額の目標値の達成につながりました。  
また、QOL健診の参加者を着実に確保し、健康意識を高めることで、目標値に満たないものの特定健康診査の受診率が前年より向上しています。

【今後の方針(R7年度の取組内容を含む)】  
りんご生産の中心となっている年齢層のリタイアは迫っており、産地基盤の弱体化に歯止めがかからない状況にあることから、生産者の健康啓発を通じて、りんご生産者が健康的に営農に取り組めるよう意識変革や行動変容、健康増進に資する生産環境の整備に取り組むとともに、生産性向上に資する手法の創出や、健康機能性に着目したりんごの定着やりんごジュースの創出などを行いながら、実装化に向けて取り組みます。